

PlaNYC

自分たちの街ニューヨークが2030年にどのような姿になっていたらよいのか、4年前、我々は問いかけた。

人口増加、老朽化する社会基盤、気候変動、そして経済発展は、ニューヨークという都市の成功と市民の生活の質に課題を投げかけていた。しかし、これらの変化に、我々がいかに自分たちの行動により対応していくかが、自分たちの将来を左右するのであるとわかった。

我々は、これらの課題に対応し、より環境に優しく、より素晴らしいニューヨークを作るための大胆な計画として、このPlaNYCを策定した。

この取組は大きな成果を生み出した。たった4年で、既存の公園を整備しながら200エーカー（約80ヘクタール）以上の公園スペースを拡張した。6万4千戸以上の適正価格住宅（アフォーダブル・ハウジング）を建設または維持させた。ニューヨーク市民に多様な交通機関を提供した。既存の建物をよりエネルギー効率の良いものとするため、意欲的な法律を施行した。その結果、温室効果ガスの排出量は、2005年の水準と比べ13%減少した。

今こそ、更なる取組を進めなければならない。

この4年間の進展と教訓をもとに、最新のプランをここに提示する。

PlaNYCは、犯罪、貧困、教育、公衆衛生など、ニューヨーク市政府が行っている他の取組を補完する役割も負っている。

このプランは、ニューヨーク市の物理的な側面と、我々の日常生活における社会基盤の機能性に着目している。あまりにも高価な住宅、子供の遊び場がもっと必要な地域、老朽化した水道や更新時期を過ぎた電力システム、混雑した道路にすし詰め地下鉄。もしこれらの課題を放置しておけば、我々の経済活動や生活の質が蝕まれてしまう。

歴史を振り返ると、将来への投資はけして贅沢なものではなく、むしろ不可欠なものであるといえる。19世紀、クロトン水道やブルックリン・ブリッジに代表される画期的で意欲的な社会基盤への投資や、かつて無い規模での移民流入により、ニューヨークはアメリカを代表する都市としての地位を確固たるものとした。続く20世紀の初頭、地下鉄への新たな設備投資、摩天楼の建設、公衆衛生の向上、下水道設備の整備などに代表される、街の再生にかけた活力と能力により、ニューヨークは社会基盤の充実と革新において世界をリードする立場となった。

これは今後何世紀も続く道である。時代が変わってもニューヨーク市は変革をリードする街なのである。ニューヨークの成功の鍵は、果敢に課題と取り組みチャンスを最大限に活かす、リーダーの先見性と勇気なのだ。

これが、PlaNYCにこめた我々の狙いである。

我々の課題とチャンス

ニューヨークが繁栄するためには、増加する人口を受入れ、社会基盤の充実と整備を図り、経済競争力を高めて、大気環境と水質を向上させていく必要がある。これらの取組は、気候変動への影響を減らしつつ、また、気候変動による影響に備えながら進めていかなくてはいけない。

Growth (成長)

ニューヨーク市の人口は未だ伸び続けている。新たに移り住んだ人々やすでに生活している人、その子や孫もあわせて、2030年までには人口は900万を超えると予想されている。

もし、この人口増加が適切に計画されたものであれば、非常に多くのチャンスが生まれる。新たに移り住む人々により、我々の経済活動に新鮮なアイデアと革新がもたらされる。成長を通じ、コミュニティが豊かになり、街に活気と多様性がもたらされる。一方、計画を伴わない成長—無秩序なものであったり、社会基盤の容量を大きく超えるものであった場合—は我々の町にとって重荷となり、生活の質を落とすものとなる。

人口増加に備えるプランであるので、量的な目標だけではなく質的な要求についても考えなくてはいけない。住宅の個数や下水道の延長距離などといった数値で表すことができる整備を進めながら、人々が住みたいと思うような、また、事業を始めたいと思うような地域をつくり、維持していくことも考えなくてはいけない。ニューヨーク市が大きくなるにともない、我々は、ニューヨークが質的にも良くなるようにしていかなければならない務めがあるのだ。

Infrastructure (社会基盤)

人々の役に立ち、新しいアイデアや起業家を誘致・支援し、また、気候変動の影響に備えるためには、次のことが必要だ。すなわち、我々が共有する都市空間と社会基盤に対する計画、資金繰り、維持において、先見性のあるアプローチをすることだ。

我々の利用する地下鉄にはじまり、飲料水を運ぶ水道管、家庭やオフィスに電力を供給する電気設備に至るまで、過去から受け継いできた掛け替えのないインフラによって、我々の日常のニーズが支えられている。これらのシステムを作り上げてきたニューヨーク市民は、遠い将来を見据え、困難にも耐え、後の世代も繁栄が続く街となるよう、インフラの整備に取り組んできた。今を生きる我々も同じ視点を持たなくてはいけない。

今日、ある意味において、我々の受け継いできた社会基盤は限界に達している。地下鉄はこの半世紀で過去最高の乗車率となり、ますます込み合っている。建設されてから100年を超える橋は、修繕が必要となっている。いくつかの橋については架け替えも必要となっている。上水道は開通以来絶え間なく使われており、漏水が発生し修繕が必要だ。前時代に、当時の需要量を前提に建設された電力網は、近年の電力需要に応えるのが精一杯だ。

20世紀後半のほとんどの間、ニューヨークは過去から受け継いだ社会基盤を省みることは無かった。ニューヨークは衰退しつつあると広く考えられており、新たなインフラを整備したり、我々が依存している既存の財産を維持するための適切な投資を行ってこなかった。ニューヨークは衰退するという予言がそのとおりになってしまうということを学んだのだ。そこで、景気後退の時期ではあったが、市民の資産に投資し、雇用機会を増やし、現在と将来にわたり偉大な都市となる道を選んだ。

ニューヨーク市民は、蛇口をひねればきれいな水が出て、スイッチをつければ電灯がつく

という生活をする権利がある。頻繁に本数があり遅れや運休の少ない地下鉄に乗り、近所の公園を散歩し、交通事故の心配をせずに子供を歩いて通学させる権利がある。PlaNYCの目指す、緑豊かで環境に配慮したすばらしいニューヨークで生活する権利があるのだ。

A Global Economy (世界経済)

ニューヨークは常に、約束と可能性の地であり、人々がよりよい暮らしを求めて目指す地であった。希望を胸にいただいた勤勉な数百万の人々がこの地にやってきたのだ。

こうした人々の努力の結果、ニューヨークは世界の商業の中心となり、世界中から優れた才能を持った人々を惹きつけてきた。

ニューヨークは今でも、才能や富をひきつける街である。しかし、人やお金の行き来が活発になるにつれ、都市間の競争が激しくなってきた。我々は、優れたアイデアと能力が高く高度な訓練を受けた労働力を求め、他の都市と競い合っている。経済面で繁栄していくためには、才能ある起業家—そして彼らがはぐむビジネスマンが集まるような環境を作っていくなくてはならない。

このようなビジネス環境を作り上げていくための根本的な条件の一つは、機能的で費用効率の高い社会基盤である。効率的に商品が市場を行き来し、人々が通勤できるようにするための交通システム、会社や家庭が頼れるようなエネルギーシステムである。

もう一つの根本的な条件は生活の質である。生活の質を求めることは、もはや漠然とした優雅さを意味するのではない。企業のリーダーがどこに会社を移転させ、あるいは拡張するのかを決める際の具体的な要素だ。すなわち、あらゆるところに住む場所の選択肢がある時代において、才能ある労働者がどういったと

ころを選ぶのか、ということである。すばらしい公園やきれいな空気は、余計な飾りとは考えられていない。

大きな変化の時代において、経済面における持続可能性はより重要な意味を持ち始めている。技術革新、エネルギーの価格変動、気候変動といった状況の中で、経済面での好機が最初に訪れるのは、新たな環境に適応した新たなサービスと社会基盤を取り入れ、商業化させる道を切り開いている都市だ。PlaNYCは困難な課題に対応する新技術の革新と応用に力点を置いている。このことにより、ニューヨークの住民やビジネスが世界経済の主導的役割を担うようになるのだ。

Climate Change (気候変動)

我々を取り巻く気候は変動している。気温は上昇し、氷河は後退し、海面は上昇し、そして嵐は激しくなっている。気候変動がもたらすリスクを理解し、その解決に向けて取り組まなくてはならない。それらの取組には、科学的知識に基づく我々自身の備えが含まれている。

気候変動は我々の街に重大なリスクをもたらす。2030年までには、ニューヨーク市の平均気温が華氏3度も上昇する。気温の上昇により脆弱な高齢者などを中心に、公衆衛生上の危険が生じ、また、社会基盤に更なる負担がかかることになる。ニューヨークは、都市基盤設備が熱を吸収・保持することから、他の地域と比べ、気温上昇の影響を受けやすい。

「ヒート・アイランド現象」として知られるこの現象により、ニューヨーク市の気温は近郊地域よりも華氏7度高くなる可能性がある。

520マイル（約836キロメートル）の海岸線を持つ街として、ニューヨークでは、海面上昇と、激しさを増す嵐による洪水の危険が増

している。過去 100 年で海面は 1 フィート（約 30 センチメートル）上昇し、今後 20 年で 10 インチ（約 25 センチメートル）上昇すると予測されている。民家や企業、道路や発電所などの社会基盤の中には、より危険にさらされるものもでてくる。

気候変動に対するニューヨーク市の課題は 2 つある。つまり、地球温暖化の原因となるものを削減することと、温暖化による不可避な影響に備えることだ。我々は両面に備えるべく準備を進めている。

公共交通機関が集中し利用者も多いため、ニューヨーク市は世界の主要都市の中で、人口 1 人あたりの温室効果ガス排出量が最も低く、米国平均の 3 分の 1 である。2030 年までに、温室効果ガス排出量を 2005 年比で 30% 以上削減するという目標を、我々は 2007 年に設定した。一連の取組により、この目標の達成に向け著しい効果を挙げることができた。我々はまた、気候変動のリスクを理解し、認知可能な脆弱性を減らす具体的な行動に移すための総合的な取り組みを開始した。

もし、気候変動の速度を緩め、すでに起こりつつある変化からわが街を守ろうとするのであれば、我々のやらなくてはいけないことはもっとある。

どの都市もこの取組を自分たちだけで行うことはできない。また、誰一人としてこの状況を座して見ているわけには行かない。ニューヨークは常にこの待ったなしの課題への答えを導き出してきた。21 世紀の明確な課題を再び乗り切るのは、我々に課された義務なのである。

我々の歩み

2007 年に発表された PlaNYC は、経済を活発にし、気候変動に立ち向かい、すべてのニューヨーク市民の生活の質を向上させるなど、100 万人以上増加する人口に備えるためのこれまでにない取組であった。PlaNYC のもと、緑豊かで環境に配慮したすばらしいニューヨークという構想に向け、市政府の 25 以上の部局が一体となった。長期目標が達成されるには長い年月がかかるが、年次進捗報告書にあるとおり、ほとんどの長期目標については達成に向け予定通りに進行しており、2007 年版のプランにある 127 の事業のうち 97% が着手済みである。

これまでに、ニューヨーク市は社会基盤整備に賢明で画期的な投資を行ってきた。このことにより、将来の人口増加と、現在のニューヨーク市の住民のニーズに応えることができるであろう。たった 4 年間で、64,000 戸の住宅を整備してきた。交通機関を重視した 20 以上の区画再整理を行い、87% 以上の新規開発地域で交通機関への接続のよさを確保することができた。新時代の公園建設に着手し、25 万人以上のニューヨーク市民が徒歩 10 分以内で公園を利用することができるようになった。市バスの快速サービスも実施し、河川・水路をきれいにするため、環境に配慮した社会基盤に 15 億ドルを支出した。50 万本以上の木を植えた。また、上水道にこれまでにない投資を行った。

イエローキャブの 30% 以上がいまや環境に配慮した車両であり、この街で最も利用される自動車であるタクシーからの排気ガスを減らした。道路を走行するすべての乗用車やトラックを合わせたよりも多くの汚染物質を排出する、有害な暖房用燃料を徐々に減らすための規制が施行された。ブラウン・フィールド（環境汚染などの理由で利用されなくなった産業・商業用地）を再生するための手続きを簡略化したことにより、わが街で最も汚染されている地点をきれいにするための作業を始め

る時間が短縮される。観光客やニューヨーク市民を惹きつける「世界の交差点」タイムズスクエアをはじめ、歩行者向けの公共広場を設置し、歩行者の死亡率は減少した。2017年までに市政府が排出する温室効果ガスを30%削減する取組の一つとして、市が保有する建物に、エネルギー効率を高めるための100以上の改良を実施した。市議会とも連携し画期的なグリーン・ビル法を施行した。この法律により、カリフォルニア州オークランドと同規模（人口約42万）の都市がカーボン・ニュートラル（大気中の二酸化炭素を増加させない状態）になるのと同じくらいの影響をもたらす。加えて、気候変動からの回復力を高めるため、世界中のどの都市よりも総合的な取組みの一つを開始した。

これらの取組みは、温室効果ガスの減少だけではなく、ニューヨーク市民の生活に直接的な好影響をもたらす。

同時に、いくつかの目標達成を阻む障害にも突き当たった。安定的で十分に合理的な資金源が無いために、交通システムの維持、改良、拡張が阻まれている。渋滞が蔓延し、時間的・金銭的損失が発生し、燃料の浪費、大気の汚染がもたらされる。世界的景気後退により、資本的予算を削減せざるを得ない状況にある。その結果、PlaNYCにある事業のいくつかは進捗が遅れてしまった。州政府や連邦政府による許認可・対策あるいは財政支援が無いために、遅れてしまった取組みがある。しかしながら、我々は長期目標に決然たる姿勢をとり続けるのだ。

我々は大きな進歩をした一方で、まだやるべきことは多く残っている。

PlaNYCが最初に始まったとき、我々が直面する課題への解決策がすべてそろっているのではないことに気がついた。また、年を経るにつれて、新たな課題が発生することも知った。そこで、最初の取組みから4年経過した、

今、PlaNYCをリニューアルしたわけである。今回の新たなPlaNYCは、これまでの再確認であって方向性の変更ではない。全般的な軌道修正を意味するような変更や追加は含まれていない。

我々の進む道

目標の設定やその進捗状況の評価に当たっては、我々は常に明白であり、説明責任を果たし続けてきた。しかし、真に目標を達成するには、市政府だけではなくすべてのニューヨーク市民の積極的な関与や取組みが必要である。コミュニティに地盤を置く数千に上る組織や個人が地域の持続性を高めるために活動をしている。ブロンクス・リバー・アライアンスはブロンクス川をきれいにする取組みを行っている。スタテン・アイランド・グリーンベルト・コンサーバンシーは子供たちが自然と親しむ働きかけを行っている。ブルックリン・ウォーターフロント・グリーンウェイ・オーガニゼーションは、浜辺を歩いたり自転車に乗ったりできるような取組みを進めている。

自分たちの近隣地域の環境面における持続性がより高まるよう、住民たちも寄り集まって計画を立てている。サステイナブル・フラットバッシュでは、ブルックリン地区において、エネルギー効率向上とリサイクル推進のための活動を行っている。マンハッタンのローワー・イースト・サイド・エコロジー・センターでは、地域での堆肥化や、教育の取組みを進めている。これらの事例は、さまざまな利害や異なる地理的背景をもつ数百ものグループに共通する、ただ一つのことがあることを意味する。それは、より環境に優しくより素晴らしいニューヨーク市を構成する、より環境に優しくより素晴らしい住宅地域を作り上げていくため、汗を流していくということだ。

我々の取り組みに加わるよう呼びかけつつも、こうした地域の取り組みを奨励し支援していく。

こうした中、我々がレッド・フック（ブルックリン）やハミルトン・ハイツ（マンハッタン北部）で展開している取り組みをすすめている一方、ロッテルダムや香港が我々の動きに注目している。2010年11月、ブルームバーグ市長が、温室効果ガスの排出削減を進めるリーダーを擁する40の世界の大都市のネットワークである、C40気候変動グループの議長に選出された。C40加盟都市は、近隣の関係都市18都市を含めると全世界の国内総生産の約21%を占める。地球に暮らす12人に1人は都市または都市の境界線近くに住んでいる。こうした都市が我々の市長をC40の指導者に選んだのは、ニューヨークが率先して取り組みを進めていることを認識しているからだ。また、このことは、加盟都市からノウハウを学び取るチャンスの意味する。バスサービスの向上に関するクリティバ（ブラジル）からのアイデアは、カナシー（ブルックリン）でも実施できるだろう。メルボルンでの公園の再緑地化は、ミドル・ビレッジ（クイーンズ）でも役立つかもしれない。

世界的な課題と、身近な地域における課題は互いに関連しあっている。我々は皆、果たすべき役割と責任がある。ニューヨーク市は真剣に自らの責任を果たしていく。前世代の人々が目の前に直面する困難に対処し、このすばらしい街を我々に残してくれたように、我々も次に世代に引き継いでいかななくてはならない。未来に向け前進し、より環境に優しく、より素晴らしいニューヨークを作り上げていくのだ。